

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集

富士見城跡

——長野県小諸市富士見城跡発掘調査報告書——

1997. 3

小諸市教育委員会

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集

富士見城跡

—長野県小諸市富士見城跡発掘調査報告書—

1997. 3

小諸市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、平成8年5月27日～7月25日まで発掘調査された、長野県小諸市大字菱平字竹原に所在する富士見城跡の調査報告書である。
- 2 本調査は、小諸市建設部都市計画課の委託を受け、小諸市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、星野保彦を発掘担当者とし、有識者を調査員とし、地元後平地区の方々の御協力を得て実施した。
- 4 遺構実測図の作成は、次の者が行った。
井出喜八、太田史夫、星野保彦
- 5 遺構の写真撮影は、太田史夫、星野保彦が行った
- 6 本書の執筆は、星野保彦が行った。
- 7 本書の編集は、太田史夫・星野保彦が行い、小淵武一がこれを校閲、監修した。
- 8 発掘調査及び報告書作成に際しては、次の方々に御指導・御配慮・御協力を賜わった。ここに御芳名を記して厚く御礼申し上げる(50音順、敬称略)。
河西克造、小林俊一、郷道哲章、笠本正治、西森　要
(関係機関) 新日本航業株式会社、有限会社堀籠重機

凡　　例

- 1 遺構実測図の縮尺は、次の通りである。
石垣断面図　1/80　　遺構全体図　1/1,500
- 2 水系レベルの原点は、次の通りである。
No1 805.641m、No2 805.485m、No3 806.262m、No4 804.993m、No5 808.112m、No6 809.101m
- 3 土層の色調は、「新版　標準土色帖」の表示に基づいて示した。

本文目次

例　　言

凡　　例

本文目次

付表目次

挿図目次

図版目次

I. 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	1・2
3 調査の経過	2
II. 遺跡の概観	3
III. 層序	7
IV. 遺構と遺物	8
1 遺構	8・9
2 遺物	9
V. 総括	10
引用参考文献	10

付表目次

第1表 富士見城跡とその周辺遺跡	6	第2表 石垣の長さ・高さ一覧表	9
------------------	---	-----------------	---

挿図目次

第1図 富士見城跡の概念図と調査地点	3	第2図 調査地点と周辺遺跡	5
第3図 基本層序	7	第4図 地質分布図	7
第5図 石垣実測図	8	第6図 石垣・トレンチ全体図	9

図版目次

図版1 第1号～第10号石垣

図版2 作業風景・第1・3～8号石垣裏込め状態

図版3 第1号～第10号石垣

I 発掘調査の経緯

1 調査に至る動機

小諸市建設部都市計画課は、後平より小諸市立総合美術館（仮称）に至る『パノラマふるさと街道』を建設することとなった。道路の建設予定地は、小諸市遺跡詳細分布調査報告書の富士見城跡の範囲からは外れるが、城跡の東に接する地点に位置し、石垣が見られ、城跡に関わる遺構・遺物が検出されることも予測されるため、緊急調査の必要が生じた。

このため、小諸市教育委員会では、都市計画課の依頼を受理し、長野県教育委員会文化財保護課指導主事 小林俊一先生の御指導を受け、当該地に残る石垣の位置を平面図に入れ、造りがしっかりしているものについては断面を実測、また、石垣と石垣の間の畝にはトレンチを入れ、遺構の有無を確認することとし、平成 8 年 5 月 27 日より調査に着手した。

なお、上記の美術館建設予定地(大字諸字上原敷163-1外)は、平成 7 年 10 月 5 日～20 日に、試掘調査を実施したが、遺構・遺物共に検出されなかった。

2 調査の概要

- 遺跡名 富士見城跡
- 所在地 長野県小諸市大字菱平字竹原
- 調査期間 平成 8 年 5 月 27 日～7 月 24 日
- 調査に関する事務局の構成組織は下記の通りである。
 - 美齊津秀晴 小諸市教育委員会教育次長
 - 小田中茂 ✕ 社会教育課長
 - 小山文登 ✕ 社会教育係長
 - 金井利男 ✕ 社会教育係主査
 - 前田洋子
- 調査団の構成組織は下記の通りである。
 - 顧問 関 三郎 小諸市教育委員会教育委員長
 - 上野英世 小諸市教育委員会教育長
 - 团长 小瀬武一 小諸市文化財審議委員長
 - 副团长 井出喜八
 - 担当者 星野保彦 小諸市教育委員会学芸員
 - 調査員 小野山 清、太田史夫、松本甲子雄、山浦 実
 - 調査補助員 佐藤君代

3 調査の経過

調査日誌(抄)

5月27日(月) 晴

重機により試掘レンチを入れ、遺構検出作業を行う。

5月30日(木) 晴

重機により試掘レンチを入れ、遺構検出作業を行う。

一旦、中断

7月3日(水) 晴

テント設営、石垣の周囲の草刈り。

7月9日(火) 曇り

石垣の周囲の草刈り、雑木の伐切。

7月11日(木) 晴

石垣の周囲の草刈り、清掃、写真撮影。

7月16日(火) 晴

石垣の断面を実測する部分にかかっている石を外す。

7月22日(月) 曇り、夕方豪雨

石垣の断面の実測。

7月25日(木) 晴

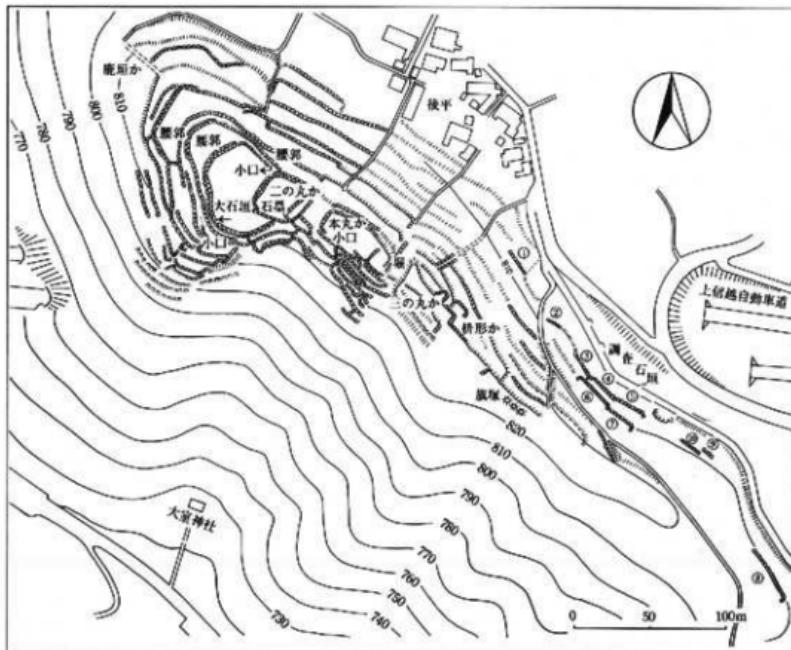
器材撤収。調査終了後、報告書作成作業を行った。

II 遺跡の概観

富士見城は、小諸市の中央部よりやや北西に位置する飯綱山（標高835.5m）の山頂周辺に築かれた中世から近世にかけての城砦ととらえられている。

小諸市誌によると、富士見城が築城された時期は定かでないが、佐久地方の大半の城塞の築城が応仁・文明の乱以降であることから、この城の起源も15世紀後半頃まで遡るものとされる。築城者は、当時佐久地方を支配していた大井氏の一人で、西方からの脅威（村上氏）に備え、小諸城の大遠見城として築かれたらしい。同様の意図で大井氏の協力者により築かれたと考えられている城塞には、市内宇賀神に所在する手代塙城がある。

富士見城が再び地方史のなかに登場するのは、起源とされる時期から約100年を経た頃になる。長野県町村誌、諸部落誌によると「天正10年（西暦1582年）本郡擾乱の際、徳川氏の眷、柴田七九郎康忠暫時居城せしと、里老の口碑にして確乎たらず」とされている⁽¹⁾。



第1図 富士見城跡の概念図(郷道哲章氏による縄張図)と調査地点 (1:5,000)

柴田七九郎は、徳川家康の家臣で、天正11年、依田信蕃が徳川氏の命によって岩尾城（佐久市大字鳴瀬字城跡・宮の前）に籠った大井行吉を攻めたときの軍監として、依田氏の軍を督している。また、柴田は、天正13年、徳川氏と上田の真田氏との間に不和が生じた際、徳川氏との先鋒として上田城下に迫り、真田氏の反攻にあい多数の犠牲を出し敗退した第一次徳川・真田合戦、及びその後に報復のため、上田方に与する丸子城を攻めた折の武将としても松平康国、大久保忠世等と共に名を連ねている。

天正年間は、佐久地方に勢力を張った徳川氏と真田氏との間に緊張が続いた時期とされる。その間、主城小諸城の西方監視の役割を担う衛星城砦として、富士見城が重要な位置を占めたであろうことは想像するに難しくない。

中世の城跡には、このほか本城跡の東方約1kmの地点に菱形城跡がある。その起源は、市誌によると嘉暦の頃（西暦1326～1329）、時の地頭が指導者の役割を果たし、「集落防衛を目的として城の構築に農民の力を借りたものであろう」とされる。昭和54年3月から6月にかけて、その一部が広域農道にかかるため発掘調査され、遺構では堀、堀切各1基、遺物では銅地に鍛金が施された鉢、内耳土器片などが出土している。

今回の調査地点は、浅間山を東北方に望む飯綱山の北東側の斜面に位置し、標高810m～820mを測る。遺跡周辺の地層は、烏帽子火山群の活動により、鮮新世から洪積世にかけて形づくられた飯綱山溶岩（灰色の細粒1mm以下の輝石類の散点する普通輝石紫蘇輝石安山岩）を基盤とし、その上に飯綱山溶岩の風化した礫を含んだ粘性に富む土壤が堆積している。

調査対象地周辺の緩斜面の一部は、かつては桑園が営まれ、現在は果樹、蔬菜類の畑地として利用されている。また、耕作地以外の斜面には、雜木林がひろがり、木本では、ケヤキ、コナラ、アカマツ、クヌギ、クリ、カスミザクラなどの高木、ヤマウルシ、ニシキギ、ノイバラ、クロツバラ、ヤマブキなどの低木、蔓性のアケビ、スイカズラ、ツルウメモドキ、クズなどがみられ、一方草本では、ススキ、ハギ、ヨモギ、スギナ、シロツメクサ、ヒメジョオン、セイヨウタンボポなどがみられる。

註

- (1) 小諸市誌編纂委員会 1984『小諸市誌 歴史篇(二)』
- (2) 註(1)の文献
- (3) 註(1)の文献
- (4) 小諸市教育委員会 1980 『菱形城址』
- (5) 小諸市誌編纂委員会 1986 『小諸市誌 自然篇』



第2図 調査地点と周辺遺跡 (1:25,000)

第1表 富士見城跡とその周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	縄文 弥生	古墳	歴史	中世	近世	備考
1	芋焼道跡	沼野字芋畑・糠地	台地	○					
2	糠地遺跡	沼野字糠地	台地	○					
3	北山遺跡	沼野字北山	台地		○				
4	旦田城跡	沼野字上深沢	台地			○			
5	北山飛地遺跡	沼野字北山飛地	台地	○					
6	上西原遺跡群	澁原字上西原・中西原	台地		○	○			塔ノ峰遺跡を含む
7	飼場A遺跡	斐平字飼場	台地			○			
8	飼場B遺跡	斐平字飼場	台地		○	○			
9	城の峯城跡	斐平字上斐野入	丘陵			○			
10	深沢遺跡群	沼野字中志駒馬・老駒馬・東原・下見原・金御 ・田中畠・鏡音前・深沢田	台地	○	○	○			昭和59年一部試掘調査
11	三宅城跡	沼野字上老駒馬	台地			○			
12	下西原遺跡	澁原字下西原	台地			○			
13	荒神反古墳	西原字荒神反	台地		○				
14	清水平遺跡	澁原字清水平	台地	○		○			
15	孫藤遺跡	澁原字孫藤	台地	○		○			
16	諸古墳群	諸字窪屋敷・別府	台地		○				
17	富士見城跡	諸字城峯・上屋敷	山頂			○			
18	風張遺跡	斐平字風張	台地	○		○			
19	大久保遺跡	斐平字大久保	台地	○		○			
20	斐形城跡	斐平字中尾根	丘陵			○			
21	中尾根遺跡	斐平字中尾根・大久保	台地	○		○			昭和54年一部発掘調査
22	前田遺跡	斐平字前田	台地			○			
23	下菱野入遺跡	斐平字下菱野入	山麓			○			
24	西丸山A遺跡	斐平字西丸山	台地			○			
25	西丸山B遺跡	斐平字西丸山	台地			○			
26	西丸山C遺跡	斐平字西丸山	台地			○			
27	下平遺跡	大久保字下平	台地	○					
28	脚形城跡	大久保字東脚沢	台地			○			現存せず
29	諸遺跡	諸字並木・別府・窪屋敷	台地	○	○	○			
30	清水駅跡	諸字大門・鳥井辺・丙字青木	台地			○			
31	手代塚城跡	丙字両神	台地			○			
32	横山遺跡	丙字横山	台地	○	○	○			
33	小諸城跡	丁字城跡・町取町・坂下・日影町・足柄町・大手町・鹿島町 ・馬場長町・袋町・赤坂町・菱子原・坂下(丁・乙)・城跡・三ノ 門・筒井町・馬場町・稻鉾・中村町	台地			○	○		
34	鹿島古墳	丁字大手町309	台地		○				現存せず
35	東丸山遺跡	斐平字東丸山	台地	○		○			
36	東沢城跡	甲字塙ノ堀・山崎	台地				○		
37	野岸遺跡	甲字野岸	台地	○	○	○			

III 層序

- 第Ⅰ層 褐色土層 (7.5Y R4/4)
- 第Ⅱ層 褐色土層 (7.5Y R3/4)
- 第Ⅲ層 暗褐色土層 (7.5Y R3/3)
- 第Ⅳ層 褐色土層 (7.5Y R4/6)

富士見城跡は、小諸市街の北西約2kmの地点にある飯綱山の山頂周辺に位置する。

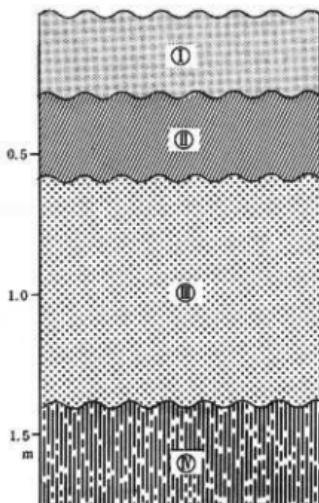
今回の調査箇所は、後平集落の南、飯綱山の山頂の北東側の、標高810~820mを測る斜面に当たる。

第Ⅰ層は、耕作土で、層厚30cm前後を測る。礫はほとんど含まない。

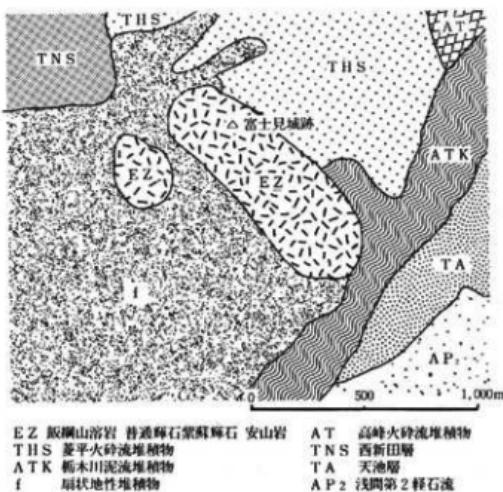
第Ⅱ層は、漸移層で、層厚30cm前後を測り、 ϕ 5.0~10.0cm大の礫を含む。第Ⅰ、Ⅱ層共に粘性がある。

第Ⅲ層は、粘土層で層厚80cm前後を測る。 ϕ 5.0~10.0cm大の礫を僅かに含む。遺構の確認は、本層上面において行った。

第Ⅳ層は ϕ 5.0~50.0cm大の礫を多量に含み、締まっている。



第3図 基本層序

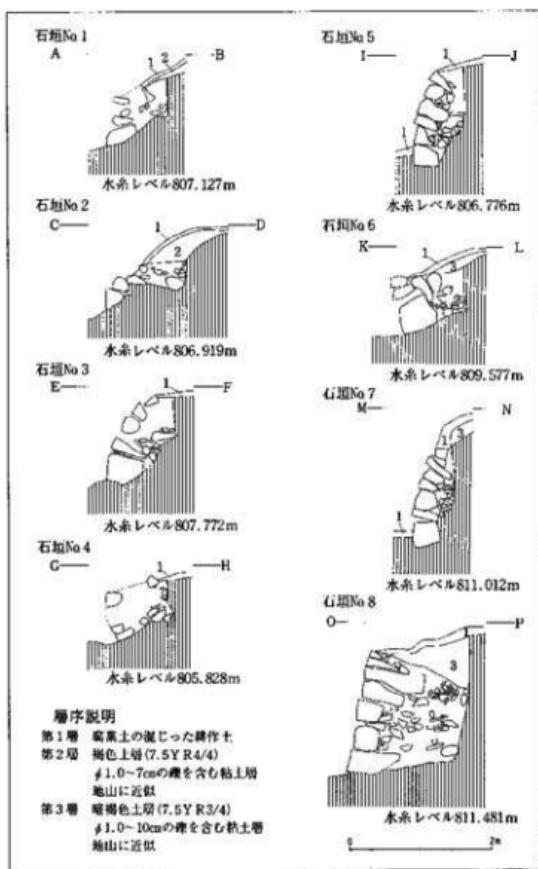


第4図 地質分布図（小諸市誌自然編による）

IV 遺構と遺物

1 遺構 (第5・6図、図版)

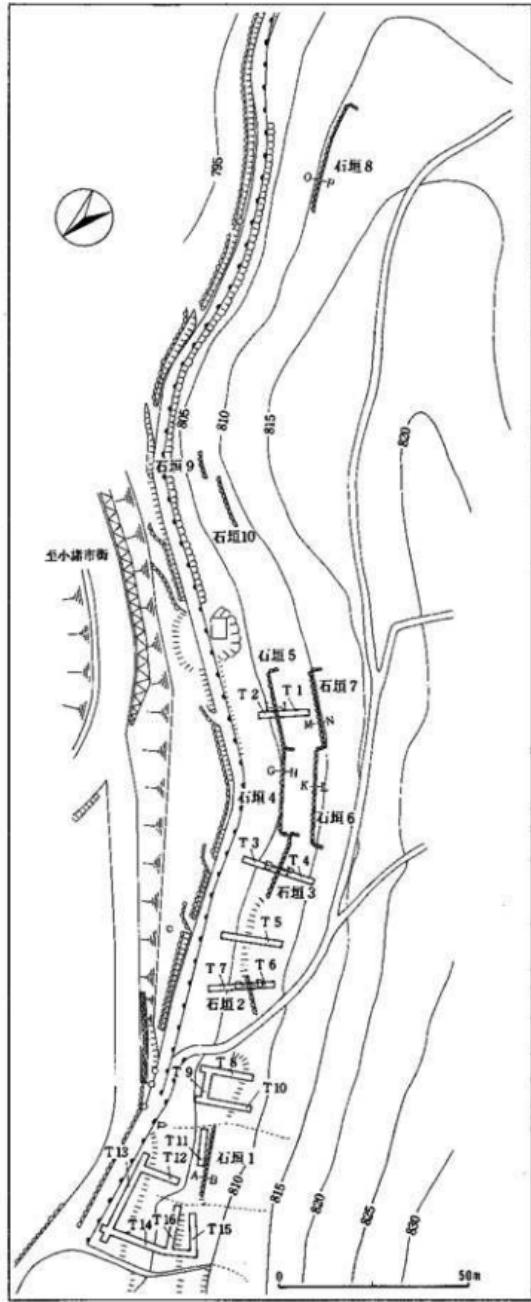
調査を行った範囲は、飯綱山の山頂の東から南東にかけての幅30m、長さ315mに及ぶ斜面である。検出された遺構には10列の石垣がある。石垣と石垣の間の斜面については、城に関わる堅穴建物址、柵列、土坑等が検出される可能性もうかがえることからトレンチ調査を実施したが、確認されなかった。



第5図 石垣実測図

石垣の詳細は、第2表に記した。規模は、高さ0.7~2.0m、長さ7.5~32.5mを測る。裏込めの幅は、0.7~1.5mを測る。ただし、第9、10号石垣では、確認されなかった。おそらくこの2列の石垣は、斜面の土砂が崩れるのを防ぐ目的で積まれたものと考えられる。また、この2列で積まれている石は、他の石垣に比べ加工痕が残るもののが少なかった。石垣に積まれている石は、いずれも付近で得られる安山岩である。第1~8号石垣は、畑もしくは、かつて畑だったと推測される土地の縁に位置している。裏込めの幅は、第8号を除いた7列が1m未満で、調査の時点では中腹部に迫り出していた。このうち、第1、2、4、6号の4列の石垣では、部分的に崩れている箇所が見られた。

以上より、第1~8号石垣は、畑の耕作に関わる畦石垣、



第9、10号石垣は、土砂崩れ防止のための石積みと考えられる。

2 遺物

今回の調査では、南北11本、東西5本の計16本のトレーニチを対象地に入れた。これらのトレーニチ、及び石垣の造りを調べるために、第1～8号石垣で1箇所ずつ石垣を切ったが、遺物の出土は皆無であった。

第2表 石垣の長さ、高さ一覧
単位(m)

No.	長さ	高さ
1	19	0.9～1.15
2	10.7	0.7
3	18.5	1.1～1.25
4	23	1～1.2
5	20	1.1～1.35
6	28	0.8～1.05
7	22.5	1.45
8	32.5	0.7～2.0
9	7.5	0.7
10	14	1～1.5

第6図
富士見城跡パノラマふるさと街道
石垣・トレーニチ(T)全体図

V 総括

今回の調査で検出された遺構（石垣・石積み）については、先に述べた。

検出された10列の石垣の内訳は、8列が耕作のための畦石垣、2列が土砂崩れを防止するための石積みと考えられる。

調査対象地の西側に位置する諸部落において、昭和28年上梓された『諸部落誌』によると、調査地点と尾根を挟んだ大字諸字上屋敷、日影平、東房周辺では、「畑は、(中略)、2米乃至3米に及ぶ石垣により形作られる所も多からず、以てその急傾斜を知るのである。」とある。引用文の畑の中には、今では入手が入らず、荒廃しているところも見受けられるが、これらの石垣は今も残る。調査地点が含まれる菱平地区について言及した『諸部落誌』に相当する資料が入手できなかったため、この文章を引用したわけだが、調査を行った後平側の斜面も、同様の意図で石垣が築かれ、畑として利用されていたものと考えられる。

蛇足になるが、同部落誌によると、江戸時代に調査区周辺の畑では、大小麦、大小豆、粟、黍、蕎麥等の穀類のほか、僅かに桑を作ったとされる。また、昭和26年の調べでは、上記の作物のほかもろこし、馬鈴薯、甘藷、果樹が加わる。この年の調査では、江戸時代には僅かとされていた桑の栽培面積が14町8反4歩13歩である。周辺での水稻の作付面積が、26町余であることを考えると当地での養蚕の比重が、いかに大きなものであったかが理解される。

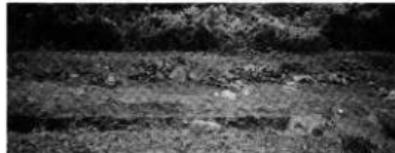
調査地点で検出された畦石垣との関連を考察する観点から、周辺の農作物の変遷について若干記した。富士見城との関わりについては明らかにできなかったが、近世以降の当該地の人々の生活を知る上で、これらの石垣もひとつの資料として考えるべきであろう。

最後に、小諸市建設部都市計画課をはじめ、調査に参加された皆様、御教示を頂いた各位に厚く御礼申し上げ、総括としたい。

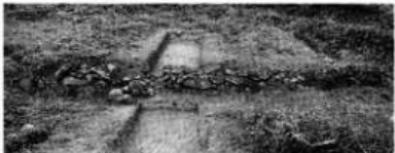
引用参考文献

- 大里村々誌編纂委員会編 1953 『諸部落誌』
北垣聰一郎 1987 『石垣普請（ものと人間の文化史）50』 法政大学出版局
田淵 実男 1975 『石垣（ものと人間の文化史 15）』 法政大学出版局
長野県町村誌刊行会 1936 『長野県町村誌』

図 版



第1号石垣



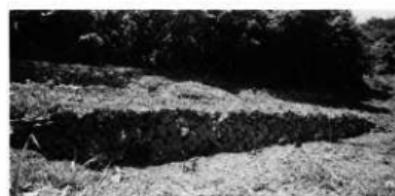
第2号石垣



第3号石垣



第4号石垣



第5号石垣



第6号石垣



第7号石垣



第8号石垣



第9号石垣



第10号石垣

図版2



作業風景



石垣裏込め状態



第1号石垣



第4号石垣



第6号石垣



第3号石垣



第5号石垣



第7号石垣



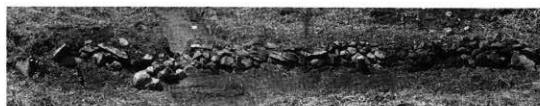
第8号石垣



第1号石垣



第3号石垣



第2号石垣



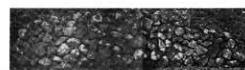
第4号石垣



第5号石垣



第9号石垣



第10号石垣



第6号石垣



第4・5・6・7



第7号石垣



第8号石垣

報告書抄録

ふりがな 書名	ふじみじょうせき 富士見城跡							
副書名	長野県小諸市富士見城跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第26集							
編著者名	星野保彦							
編集機関	小諸市教育委員会							
所在地	〒384 長野県小諸市相生町三丁目3番3号 TEL 0267(22)1700							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査原因	
		市町村 遺跡番号	°	°	年 月 日	約 m ²		
ふじみじょうせき 富士見城跡	こもろし 小諸市 れおかわらしだいら 大字菱平 あひのけはら 字竹原	20208	44	36° 20' 29"	138° 20' 25"	平成 8年 5月27 日～ 7月24 日	約 9450m ²	市道建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
富士見城跡	城跡	中世～ 近世	石垣 10列	なし				

小諸市文化財報告書第26集

富士見城跡

緊急発掘調査報告書

発行日 1997年3月31日

編集者 小諸市教育委員会

発行者 小 諸 市

小諸市教育委員会

印 刷 衛アオヤギ印刷

